

政策評価調書（個別票1）

【政策ごとの予算額等】

(千円)

政策名		犯罪捜査の的確な推進					
評価方式		総合・実績・事業	政策目標の達成度合い		相当程度進展あり	番号	②
		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度概算要求額	
予算の状況	当初予算	214,883	153,286	185,167	190,701	264,374	
		<116,981,772>	<125,096,438>	<119,706,518>	<112,965,414>	<138,464,249>	
	補正予算	0	0	0			
		<9,773,369>	<18,872,041>	<40,403,411>			
繰越し等	繰越し等	991,144	0	0			
		<10,583,225>	<8,080,084>	<18,154,694>			
計	計	1,206,027	153,286	185,167			
		<137,338,366>	<152,048,563>	<178,264,623>			
執行額		914,731	89,632	152,510			
		<121,094,872>	<124,164,629>	<117,470,023>			

政策評価調書（個別票2）

政策名	犯罪捜査の的確な推進					番号	②	(千円)
	予算科目						予算額	
	整理番号	会計	組織／勘定	項	事項	30年度 当初予算額	31年度 概算要求額	
対応表において●となっているもの	● 1	一般	警察庁	刑事警察費	犯罪捜査の的確な推進に必要な経費	190,701	264,374	
	小計						190,701 の内数	264,374 の内数
対応表において◆となっているもの								
	小計						の内数	の内数
対応表において○となっているもの	○ 1	一般	警察庁	科学警察研究所	研究・鑑定等に必要な経費	< 799,682 >	< 819,872 >	
	○ 2	一般	警察庁	警察活動基盤整備費	警察活動基盤の整備に必要な経費	< 110,979,992 >	< 137,517,762 >	
	○ 3	東日本大震 災復興特別	警察庁	治安復興事業費	警察活動基盤の整備に必要な経費	< 738,237 >	< 113,583 >	
	○ 4	東日本大震 災復興特別	警察庁	治安復興政策費	警察活動基盤の整備に必要な経費	< 447,503 >	< 13,032 >	
	小計						<112,965,414> の内数	<138,464,249> の内数
対応表において△となっているもの								
							< >	< >
							< >	< >
							< >	< >
小計							の内数	の内数
合計						190,701	264,374	
						<112,965,414> の内数	<138,464,249> の内数	

政策評価調書（個別票3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

政策名			犯罪捜査の的確な推進				番号	②	(千円)
事務事業名	概要	整理番号	予算額			政策評価結果の反映による見直し額(削減額)	達成しようとする目標及び実績		
			30年度 当初予算額	31年度 概算要求額	増△減額		政策評価結果のポイント		
							概算要求への反映状況		
犯罪鑑識官による鑑定	検査の科学化を推進するため、被疑者の迅速な特定や余罪の割出しに大きな効果を発揮している指掌紋照会業務、DNA型鑑定業務及びDNA型データベースの運用等を行うもの	● 1	1,068,831	1,061,258	△ 7,573	△ 9,731	<p>【目標】 ・殺人、強盗、強制性交等、侵入窃盗、自動車盗等の検挙率について、過去5年間の平均値を上回る。 ・DNA型データベースの活用件数を前年度よりも増加させる。</p> <p>【実績】 ・平成29年度中のすり以外の各罪種の検挙率が過去5年間の平均値を上回った上、重要犯罪・重要窃犯全体の検挙率も過去5年間の平均値を上回った。 ・平成28年度と比較して、平成29年度の遺留DNA型記録一致件数は約21%増加し、被疑者DNA型記録一致件数は約8%減少したものの、刑法犯認知件数が平成28年度と比較して約9%減少していることに鑑みれば、前年度よりも活用件数が増加したと言える。</p>		
鑑識に必要な物品購入等	科学捜査力を強化するため、鑑定・鑑識業務に必要な物品購入等を実施するもの	○ 2	1,510,507	2,726,298	1,215,791	△ 7,489	<p>【目標】 ・殺人、強盗、強制性交等、侵入窃盗、自動車盗等の検挙率について、過去5年間の平均値を上回る。 ・DNA型データベースの活用件数を前年度よりも増加させる。</p> <p>【実績】 ・平成29年度中のすり以外の各罪種の検挙率が過去5年間の平均値を上回った上、重要犯罪・重要窃犯全体の検挙率も過去5年間の平均値を上回った。 ・平成28年度と比較して、平成29年度の遺留DNA型記録一致件数は約21%増加し、被疑者DNA型記録一致件数は約8%減少したものの、刑法犯認知件数が平成28年度と比較して約9%減少していることに鑑みれば、前年度よりも活用件数が増加したと言える。</p>		
合計			2,579,338	3,787,556	1,208,218	△ 17,220			